

サプライチェーン・マネジメント

基本的な考え方

太陽誘電は、あらゆる法令や国際ルールおよびその精神を順守し、社会的良識をもって行動する理念を「CSR憲章」に掲げ、当社グループ全ての役員・従業員がとるべき行動を「CSR行動規範」として定めています。あわせて「RBA行動規範[※]」をサプライチェーン・マネジメントの基盤として、人権、労働、安全・衛生、環境、倫理に配慮した調達活動を推進しています。

当社グループの理念を実践するため、「太陽誘電グループ資材調達基本方針」を策定し、当社グループにおける資材やサービスの調達に際して、広く世界に対して公平・公正な取引機会を提供しています。また、法令順守および契約の履行を基本とした相互信頼に基づく取引を行うとともに、環境保全の視点からグリーン調達を積極的に進め、持続可能でレジリエントなサプライチェーンの構築に取り組んでいます。更に、日本国内においては、「パートナーシップ構築宣言」を行い、サプライチェーン全体の付加価値向上と事業者の皆様との共存共栄を目指しています。

※ Responsible Business Allianceの定める行動規範

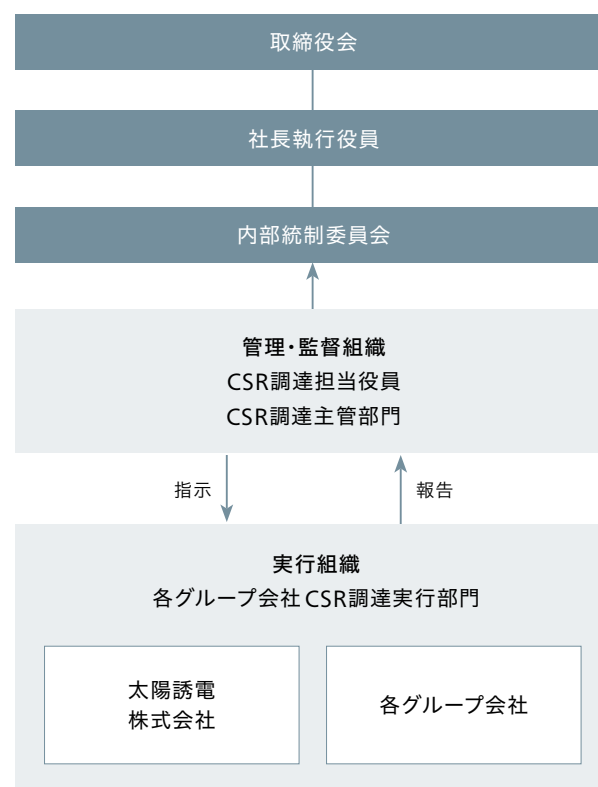
資材調達基本方針

[🔗 資材調達活動 | 社会\(S\) | サステナビリティ](#)

推進体制

太陽誘電のCSR活動では、内部統制委員会が活動の全体を統括し、CSR行動規範の条文ごとに担当役員とHQ部門が活動方針やグループ共通ルールを定めています。調達に関する取り組みは、調達担当役員と調達主管部門が全体方針と具体策を示し、グループ各社の調達部門がこれを実行しています。

CSR調達推進体制図



CSR調達活動

新規購入先との取引開始時には、人権、労働、安全・衛生、環境、倫理・公正な取引に関する管理体制および順守事項を定めた「太陽誘電グループCSR調達ガイドライン」への同意を求めています。特に、原材料等を扱う重要な購入先には、取引開始前にRBA行動規範を基に作成したCSRセルフアセスメントを実施し、取引開始後にも定期的なモニタリングを行うことで、継続的なリスク評価を行っています。アセスメントにより高リスクと判断された購入先にはCSR監査を実施し、改善が必要な項目については是正計画の策定を求め、その是正が完了するまでフォローを行っています。

当社グループは、これらの取り組みを通じてサプライチェーンのCSR水準を引き上げ、安定・安全な調達を実践しています。

CSR調達ガイドラインの同意実績

2025年度目標	2025年度実績
100%	100%

CSR調達セルフアセスメント適合率

2025年度目標	2025年度実績
100%	100%
2025年度末までに、566社の購入先に対して実施しました。この結果から、いずれの購入先からも重大なリスクは確認されていません。	

責任ある鉱物調達

太陽誘電は、「責任ある鉱物調達方針」を定め、製品に使用される鉱物の調達において、人権・環境・倫理に配慮した活動を推進しています。紛争地域や高リスク地域における鉱物は、武装勢力への資金供与や児童労働・強制労働などの重大な人権侵害につながる恐れがあることから、責任ある鉱物調達活動を通じて、サプライチェーンにおける鉱物調達の透明性向上に取り組んでいます。

責任ある鉱物調達方針

[責任ある鉱物調達 | 社会\(S\) | サステナビリティ](#)

責任ある鉱物調達に関する国際指針であるOECDデュー・ディリジェンス・ガイダンスに準拠した管理体制の下、RMI (Responsible Minerals Initiative)^{※1}による国際的に標準化された調査プログラムに基づき、CMRTやEMRT^{※2}などの最新の調査票を用いて製錬所・精錬所を把握しています。2025年度は3TG^{※3}を取り扱う全ての購入先から回答を取得し、主力製品に関連する製錬所・精錬所の認証状況を確認するとともに、リスク評価を実施しました。

近年、責任ある鉱物調達の対象は、紛争鉱物にとどまらず、人権・環境・倫理上のリスクが懸念される鉱物へと拡大し、より厳格な管理が求められています。太陽誘電では、顧客要求や社会要請の変化を踏まえ、責任ある鉱物調達の推進に向けて、適切な調査・管理を実施する体制を強化しています。

また、責任ある鉱物調達は業界全体で取り組むべき課題であることから、JEITA(電子情報技術産業協会)の「責任ある鉱物調達検討会」に参画し、会員企業と情報交換や議論を進めています。更に、同協会主催の「責任ある鉱物調達説明会」では、運営に携わるとともに講師として、当社購入先を始めとする多くの参加企業に対し、自社の知見や経験を発信し、責任ある鉱物調達に対する意識向上およびサプライチェーン全体での取り組みの強化に貢献しています。2025年度の説明会には、3会場で約3,000人が参加しました。

※1 責任ある鉱物調達を推進する業界団体

※2 RMIが発行する鉱物の原産地・調達状況に関する調査票

※3 スズ(Tin)、タンタル(Tantalum)、タングステン(Tungsten)、金(Gold)



BCP (事業継続計画)

地政学リスクの高まりや自然災害の激甚化、物流の不安定化などにより、サプライチェーンを取り巻くリスクが増大しています。電子部品は一社の供給停止が顧客の生産活動に広く影響することから、太陽誘電では安定供給を重要な経営課題と位置付けて、リスク顕在化時にも事業継続と安定供給を確保する体制を整備しています。

このような認識の下、購入先にBCP策定の働きかけを行い、サプライチェーン全体の事業継続性を高めています。また、当社グループでは、購入先の複線化を進めるとともに、重要部材の購入先にはバックアップサイトの整備を要請しています。あわせて、購入先の復旧計画を踏まえた適正な在庫の確保を進め、起こりうる調達遮断に備えています。更に、一次購入先から遡って、製造元や物流倉庫の所在地情報をデータベース化することで、事故や自然災害の発生時に、迅速に、かつ適切な対応ができる仕組みを整えています。これらの取り組みを通じて、サプライチェーン全体のレジリエンス向上を図り、安定供給の実現につなげています。

今後はサプライチェーンの可視化を更に進め、リスク把握の高度化を通じて、安定供給と資本効率の両立を目指していきます。